

創立146年の本校の伝統と校風を受け継ぎ、すべての子どもに「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育む。

現在 日本社会は、急速なグローバル化やICT（情報通信技術）・AI（人工知能）の飛躍的な進化など、社会の加速度的な変化や技術革新により、『将来の予測が困難な時代』を迎えている。このような時代を生きる子どもたちには、広い視野と豊かな感性をもち、相手を思いやって、様々な人々と連携・協働しながら、課題を解決する力を育成していかなければならない。

子どもが自ら主体的に学びに向かう力・全体を俯瞰する力・他者と協働する力を身に付け、課題を発見・解決する力を持てるようにする。そして、子どもたちが自分自身の力で未来を切り拓いていけるように、教職員が一丸となって取組を進めていく。

## ◇ 教育理念

- 1 すべての教育活動を通して、人権尊重の精神を高め、人間愛に満たされた情操豊かな児童の育成をめざす。
- 2 児童の達成体験を重視し、自己実現のために「自ら学ぶ力」と「自ら律する力」を身に付けた児童の育成をめざす。
- 3 すべての教育活動において、意図的・計画的・継続的に道徳的な信条、判断力、実践力を培う指導を行い、豊かな心の育成を図る。
- 4 児童の安全管理に万全を期すとともに、全教育課程を通して、体力の向上を図り、健康で安全な生活を営むために必要な能力・態度を育てる。また、学校が「学びの場」・「安心して生活できる場」であるように教育設備・教育環境の充実に努める。
- 5 カウンセリング・マインドを基本として児童理解に努め、教師と児童との心のふれあいを通して、問題行動や事故の未然防止、基本的生活習慣の形成など、生徒指導の徹底を図る。
- 6 明確な目標設定や児童の実態をふまえ、地域の教育資源の活用を考慮した指導計画の作成、学習環境・教材・教具の整備、評価の充実等を通して、全ての教職員がカリキュラム・マネジメントの視点をもって実践を重ね、児童一人一人の確かな学習の成立を図る。
- 7 児童の力を最大限に伸ばす努力をする。常に子どもに寄り添った指導を行う。
- 8 教職員一人一人の特性と創意を生かし、特色ある学年・学級経営の推進に努めるとともに教職員相互の共通理解を図り、組織運営上の協力体制を確立する。
- 9 教職の専門性を高め、指導力の向上を図るため、校内研究・研修を充実させる。
- 10 家庭・地域社会・関係諸機関とのコミュニケーションを密にして、相互理解を深め、児童の健全育成のための協力体制を築く。

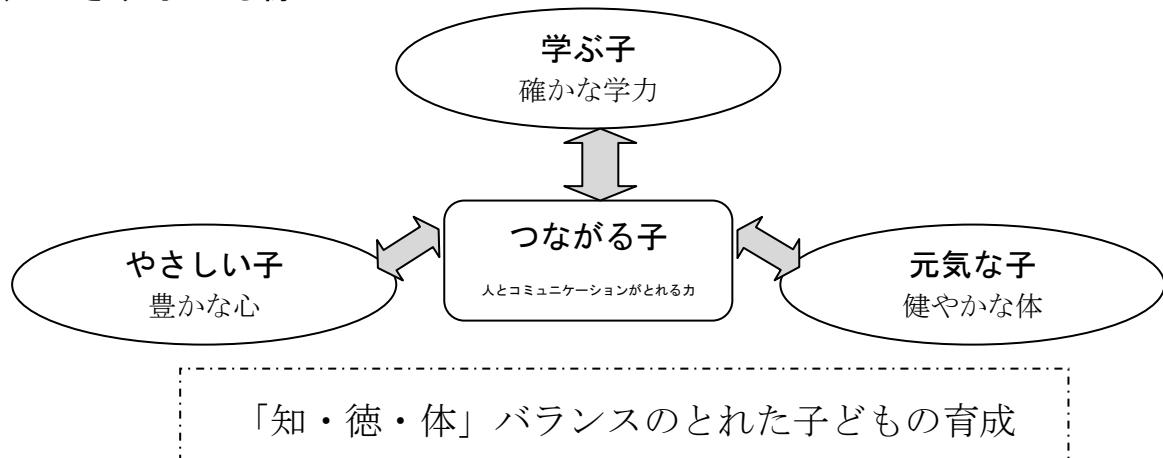
## ◇ 学校経営方針

すべての児童が輝き、全教職員がやりがいをもって、家庭・地域とともにつくる学校

## ◇ 学校教育目標

めあてを持って自ら考え方行動し、自分の思いを適切に表現する子  
— 学ぶ意欲をもとにした、豊かな学び合いの実現 —

## ◇ めざす子ども像



## ◇ 待鳳教育の基本指針

### <今年度の取組の重点>

#### ○ 確かな学力をつけるために

- ・自ら「？」（はてな）＝課題を発見させて、主体的に学ぶ力を高める。
- ・めあてを自ら設定し、それに向けての道筋を立てて取り組む。そして、振り返りを行い、さらに進む体験を重ねる。
- ・ほかの人の思いを受け止めた上で、自分の考えもわかりやすく伝える活動を、学校生活の様々な場面で繰り返し行う。
- ・情報を整理・精選するなかで、物事を多角的に見る力を鍛える。

#### ○ 豊かな心を育てるために

- ・たくさんの「できた！」を積み重ねることで、自分を信じて前に進める力を育む。
- ・互いの失敗を肯定できる力を身に付けて、トライアンドエラーの姿勢を獲得する。

## ○ 健やかな体を育てるために

- ・楽しんで体を動かすことで、自らの体力を高める習慣を定着させる。
- ・「自分自身の健康を守るにはどうすればよいか？」を実践できる教育を重ねる。

## ＜具体的な教育実践＞

### ① 学年経営を基盤とする学級経営の充実

- ・学年間のコミュニケーション。優れた取組の発信。困りの共有。

### ② 指導法の改善・工夫

- ・教材の開発、資料作成などを行い、「楽しくわかる授業」をめざす。
- ・ＩＣＴ機器やデジタルコンテンツ、「データベース」を有効に活用する。

### ③ 授業の質的改善

- ・すべての教育活動を通して、「資質・能力の三つの柱」を偏りなく育成する。
  - ▶ 「何を理解しているか、何ができるか」：知識及び技能
  - ▶ 「理解していること・できることをどう使うか」：思考力、判断力、表現力等
  - ▶ 「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」  
：学びに向かう力、人間性等
- ・目の前の子どもたちに「つけたい力は何か」を指導者自身が明確にし、「何ができるようになるか」という視点から「どのように学ぶか」を考え、「主体的・対話的で深い学び」の展開を追究する。その中で、自分の思いを他者に明確に伝えられるように、表現方法を選んで発信できる力を伸長する。
- ・すべての教科等で「めあて・目標」「振り返り」の学習活動を取り入れる。
- ・課題の発見・解決に向けた主体的・対話的な学びを重視し、「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」が実感できる授業をつくる。

### ④ 道徳教育の充実

- ・教育活動全体を通じて道徳教育を推進すると共に、道徳的価値の理解を深める指導を充実させる。
- ・道徳と各教科等を関連させ、総合単元的な道徳を推進する。

### ⑤ 体験活動を軸とした学ぶ喜びを味わえる教育活動の推進

- ・「自然・なかま・規律」をめあてにした自然体験活動を推進する。
- ・福祉・勤労体験の充実を図る。

## ⑥ 規範意識を培う

- ・「待鳳小学校のきまり」をもとにした生活を確立する。
- ・人と人とのつながりを大切にし、きまりやルールを守ることの必要性を実感で  
きる取組を進める。

## ⑦ 個を見つめ、個に応じた教育の展開

- ・意識して児童と関わることで、確かな児童理解を行う。
- ・食物アレルギーへの対応、個に応じた指導（個別の指導計画の活用）を確実に  
する。

## ⑧ 課外学習の有効活用

- ・放課後や長期休業中の学習会、土曜学習会を適切に実施する。
- ・「朝読書」「チャレンジタイム」等、帶時間を有効に活用する。

## ⑨ 家庭学習の充実

- ・学習を中心とした生活リズムを確立する。
- ・授業と連動させながら、予習・復習につながる自学自習の習慣をつける。
- ・家庭との連携・協力を図りながら、主体的に学ぶ意欲や態度を育む。

## ⑩ 未来の社会で活躍できる人間づくり

- ・キャリア教育を推進する。（生き方探究パスポートの活用）
- ・スクーデントシティ学習、ものづくりの殿堂工房学習の取組を進める。

## ⑪ 地域を巻き込んだ教育の推進

- ・地域のゲストティーチャーを有効に活用する。
- ・「学校運営協議会」との連携・協働を積極的に推進する。

校訓      **至誠**

## 鳳の教え

- |   |               |
|---|---------------|
| た | たゆまぬ努力をする子    |
| い | 生き生きと自分を表現する子 |
| ほ | ほがらかな笑顔をたやさぬ子 |
| う | うつくしい心を育てる子   |